



サーバス九州

日本サーバス九州支部会報 No. 174

2016年11月30日発行

九州支部長

朝夕めっきり寒さを感じるこの頃です。皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか？ 秋の深まりとともに我が家の庭にもミカン(清美)、ゆず、柿が実を付けました。特に柿は去年3,4個しかありませんでしたが今年は15,6個の立派な実をプレゼントしてくれました。種類は最近お店でよく見かける大州です。甘くてとろっとした口当たりで、近所におす分けして喜ばれました。

今年は3年に一度開かれる東アジア会議が韓国のプロで9月30日～10月2日に開かれました。日本サーバスから16名参加しました。(そのうち九州支部からは6名参加)その時の報告(日本サーバス会報 2016年10月31日発行)を先日皆さまの元にお届けしました。

サーバス九州支部としましては10月29日、30日に佐賀にて秋例会を行いました。(18名参加)当日行われていたバルーン大会は、お天気に恵まれ青空に浮かぶたくさんのバルーンを身近に見る事が出来感激しました。熊本地震でお家が倒壊したM.S.さんも、宮崎の会員ご夫婦の車に乗せて頂いて参加されました。家の後片づけで肋骨を骨折され、ギブスを付けての参加でしたが楽しいひと時を過ごされたと思います。震災以降大変な日々を過ごしてこられたと思いますが、お家の解体も終わり、新しい一歩を踏み出されました。お体に気を付け元気にやっていって頂きたいです。

サーバス九州支部会報 174号(2016年11月号)をお届けします。添付ファイルが開かない場合はお知らせください。



掲載している内容は以下の通りです。

1. 熊本のM.S.さんを訪ねて
2. シリーズ世界一周の旅
3. 第8回東アジア会議に参加して
4. 秋例会報告
5. サーバス九州会員情報
6. サーバス九州からのお知らせとお願い

1. 熊本の M. S.さんを訪ねて

震災ボランティア・全壊家屋に愕然！

熊本 T. H. 会員

今月（9月）の5日（月）と6日（火）の二日間、泊まり込みで M. さんのご自宅（母屋）の瓦礫撤去に伴う工事に立ち会いました。

私と熊本市内から一人の二人の山男が、重機（大型ユンボ）の先についているバケットで撤去した瓦礫の中から、家財道具（箆筍、テーブル、家電、食器、衣類、書籍、雑誌、紙類、CD、アルバム、貴金属等など）を分別収集する作業に従事しました。炎天下の作業を黙々と続けるのは大変な作業で、全壊した家屋から物を取り出すことの難しさを実感しました。

私の住む山鹿市は幸いなことに大きな被害がありませんでしたので、地元の社会福祉協議会が平日の二日間（水・木）にバスを仕立てて、県外から応援に来たボランティアの人たちを西原村へ送迎したり、市内の公共施設を彼らの宿泊場所として提供したり、食事面での対応をしていました。応援したくとも日程の調整がつかなかった私は、今回の応援作業がボランティア・デビューとなりました。

未曾有の、そして想定外の熊本地震のため、県内の解体業者は益城町を中心にフル稼働しており、今回は SERVAS のネットワークを利用して、大分県の解体業者との手筈が整ったそうです。

私たちは重機の作業の合間に足場を確認しながら分別収集すれば済みますが、プロとはいえ、重機の狭いオペレーター室に座って、目を凝らしながら絶えず手元の複数のレバーを操作してターゲットをバケットで掴み、運搬車に搬入する作業を繰り返す、オペレーターの神技には脱帽でした。同じ目的に向かって作業を繰り返すうちにプロとアマチュアの一体感が生じて、嬉しい一時でもありました。

本震で奇跡的に救出された M さんの両親は高齢で、一連の解体作業はすべて M さんの肩にかかっており、連日フラフラになりながらも作業の指示を出しつつ気丈に振る舞う M さんの心情は察するに余りあるものです。

日中の数時間、応援に駆けつけてくれた中年女性（M さんの娘さんの小学校時代の教師）が「断捨離」と書いた色紙を持参されてました。全壊前の母屋がそもそも大きく、瓦礫に埋もれた家財道具の量も推して知るべし、ということで、この際「心を鬼にして・・・」という意味だと解釈しました。

反省として、私も物をため込む性質なので、今回の貴重なボランティア作業を通して、大きな教訓を得ることができました。

私は最後の二日間だけの応援でしたが、家主の M さんは、これから収集した膨大な家財を改めて取捨選択するという作業が続きます。

健康に留意され、Never-say-die-spirit でポチポチ前進されることを祈念します。

2. シリーズ世界一周の旅

世界一周旅行「トルコ編② 2012年5月12日～21日」

熊本 T. A. 会員

そんなこんなで出足が最悪のトルコではあったが、ツアーの変更をあきらめ、手ごろなホテルに移動した後は、トルコの観光を楽しんだ。到着から4日間をイスタンブールで過ごしたが、イスタンブールだけでも見所の多い街なので、毎日飽きることはなかった。

イスタンブール内の移動は主にメトロを使用。旧市街からアジア側への移動は船を利用した。ブルーモスクやグランドバザール、トプカプ宮殿、ガラタ塔など、主な観光場所を回ったり、トルコの宗教的な踊りを見に行ったり、アジア側に渡って絨毯の敷かれたカフェで紅茶を飲みながらだらだらと夕日と旧市街を眺めたりして過ごした。

エジプトのアレキサンドリアでもローマ時代の建物を見ることができたが、トルコでも同じように古いギリシャ様の柱を見て、昔ローマ帝国の影響を受けていたことを知った。なかでも感動したのは、アヤソフィアだった。今はモスクの形をしているが元はギリシャ正教の大聖堂で、壁の中の一部に美しいモザイクの宗教画が描かれていた。以前はキリスト教の国だったのに、当事者が変わってイスラムのモスクに変わった姿に歴史を感じた。また、トプカプ宮殿では、今までに見たことのないほどの大きさの宝石がついた短剣や髪飾りや、沢山の豪華な部屋を見て、オスマン朝の力に圧倒された。

イスタンブールの後はツアーで移動。旅行会社の前に集合して、長距離夜行バス乗り場まで車で連れて行ってもらった。コースは、「カッパドキアの岩のホテルに2泊→夜行バスでパムッカレへ移動→クジャダスに2泊」というスケジュール。トルコの長距離バスってどんなだろうと思ったが、日本の大型バスと変わらず乗り心地はよかった。カッパドキアに早朝到着するまでに2回ほど土産物屋のようなところでトイレ休憩があった。

カッパドキア到着後、「岩のホテル」に案内されたが、私達の部屋は岩から離れた岩のレンガで作られた部屋で6畳くらいの部屋にシングルベッドが2個置かれているような部屋だった・・・。「岩の部屋ではない」と抗議したが今は満室とよく分からない返答。夜行で疲れていたので抗議するのを諦めた・・・。

夜行バスで着いたばかりだったが、15分後には観光ツアーの迎えがくるということで、朝食もそこそこに、あわただしく準備をしてマイクロバスに乗り込んで出かけた。カッパドキアの巨石がよく見える丘やキリスト教の坊さんが7世紀や10世紀に住んでいたという岩をくり貫いて出来た建物などを見学した。宗教的な建物の中には、キリスト教を広めるため、天井や壁に宗教画を描いているものが多かった。しかし、綺麗な状態で遺跡が残っているところもあれば、昔、観光場所として見出されていなかった時の名残で、ヤギを繋ぐために開けられた穴があったり、遺跡内で焚き火をしたためにせっかくの絵が見えなくなっていたりする遺跡もあって残念だった。

カッパドキア 2 日目は早朝より気球に乗っての巨石見学。参加費は 1 万円くらいで貧乏旅行の私たちにとっては高い出費だったが、行くだけの価値はあったと思う。早朝の朝日の中、100 を越える気球が一斉に飛び立つ姿は感動的だった。巨石も美しかったが、私はそれよりも優雅に飛ぶ上下左右の気球を眺めるほうが楽しかった。気球を降りると、なぜかグラスでシャンペンが用意されていて皆で乾杯。なかなか優雅な気分浸れた。

カッパドキアの後、また長距離バスにのってパムッカレへ。パムッカレは温泉水により石灰で出来た巨大な白い石灰棚がある場所だ。その石灰棚に着く前に、ローマ時代の遺跡を通っていくのだが、ガイド付きの遺跡見学がなかなか面白かった。昔、パムッカレの温泉施設に国中から病気や怪我をした人たちが療養に訪れていたらしかった。近くにはそういった療養のための街があるのだが、療養の甲斐なくそこで亡くなる人も沢山いたそうだ。それで、街の近くには沢山の墓の遺跡があり、そこに眠る人の装飾品を泥棒から守るためにギリシャ神話のメデューサの像が好んで使われたそうだ。街の門の近くには座れるタイプの洋式トイレもあって面白かった。大理石のトイレはお金持ち用で、用を足す前に奴隷が先に座って、便座を暖めていたそうだ。上水と下水がきちんと整備されていて、トイレの後には上水の綺麗な水をスポンジに含ませたもので拭いていたとも聞いた。

そういった古代の町並を通った後に白い石灰棚が現れる。真っ白な半円のプールが階段状に連なる中と青白い温泉水が流れるのはとても綺麗だった。多くの観光客は水着を着て温泉に浸かって楽しんでいた。私たちは水着を用意しなかったため、ズボンを持ち上げて足だけ漬けるしかなかった。石灰棚の先にはローマ時代の柱などがそのまま沈んでいる「パムッカレ温泉」もあって水着姿の方々は、柱たちの間を悠々泳いでいてうらやましかった。(いつかパムッカレに行かれる方は、水着着用で参加するのをお勧めします。)

ツアーで回るのは、時間に縛られるけどガイドの説明もあるしなかなか良いものだった。しかし、革製品のお店や絨毯や宝石の店などへの案内があり、何も買わないのにそこで 30 分以上過ぎさないといけないのは微妙だった。

最後の場所はクジャダスという港町。ココを選んだのはトルコのあとギリシャに船で移動する予定だったためだ。到着したのは、もう夜の 8 時ごろだった。ホテルでの夕食後に海岸沿いを歩いていると沢山人の足音が。私たちが到着した 5 月 19 日は、丁度トルコの建国記念日だったため、舞台上でトルコの歴史についてのミュージカルが行われていた。夜中には花火もあがってにぎやかだった。翌日は、ホテルまでマイクロバスのお迎えがあり、近くのエフェスのローマ遺跡やマリア様が亡くなった場所との言い伝えのブルブル山の「聖母マリアの家」を観光したりした。

なんだか出だしは微妙なトルコではあったが、見所やいろいろな歴史のある興味深い国だった。また行く機会があったら、まだ行ってない街を見てみたいと思う。

3. 第8回東アジア会議に参加して

1) 東アジア会議に出席して

佐賀 N. M. 会員

今回で8回目になる東アジア会議には日本から総勢16名もの会員が参加し、会の成功大いに貢献できたと思います。でも東アジア諸国からは他には台湾だけで、中国・香港・モンゴルからは一人も見えておらず、寂しい感じがしました。

私は9月28日(水)に博多港から「カメラ」号で出かけました。午後6時に釜山港に到着すると、韓国サーバス顧問のEさんが出迎えてくださり、一緒に海雲台に移動し、旧知のCさんとLさんと合流し、中華料理レストランに招待され、美味しい夕食に舌鼓を打ちました。それからEさんの家に行き一泊しました。



翌朝、Eさんと一緒に近所の食堂で韓国風の朝食を楽しみ、市場を見学した後温泉センターで朝風呂と洒落込みました。昼食をEさんの家の近くで済ませ、釜山駅へ向かいました。3時過ぎにKTXに乗り込み2時間半ほどでソウル駅に到着、6時半からレストランで前夜祭に参加しましたが、大いに盛り上がりました。その日はEさんのお友達で学院の経営者であるS. J.さんの家に泊まりました。まるで一流ホテルのような部屋でした。でもご主人のS. J.さんは昨年奥様を亡くされ、寂しそうです。

30日(金)は6時半に起床し朝食を頂いた後、ソウル駅前から2台のバスに分乗し、宗廟を訪れました。大都会ソウル市内にありながら静寂かつ広大な神域はユネスコ世界遺産に登録されているそうです。それから水原市に入り、「和清」というレストランでご当地名物「カルビ」を食べた後、SIM(サムソン先端技術センター)を見学しました。3時過ぎに古い城壁に囲まれた水原旧市街を見学しましたが、ガイドさんの素晴らしい英語に魅了されました。午後7時頃扶餘に入り、Lotte Outletsの食堂で夕食を取り、9時にユースホステルにチェック・インしました。ユースホステルの部屋は狭く、男6人で体を寄せ合うようにして休む事になり、昔なつかしい修学旅行を思い出しました！

1日(土)7時半に全員で朝食を済ませた後、討議に参加しました。その結果、韓国のS. D.さんが東アジアコーディネーターを更に一期務めることが決まり、次回の東アジア会議は2019年にモンゴルで開催という事も決まりました。なお、韓国サーパスは2018年に国際会議の会場として名乗りをあげたそうです。それが国際本部で認められる

と素晴らしいですね！ 午後はフリーで、私は韓国国会員の案内で、すぐ近くで開かれている百済フェスティバルの見学に出かけ、ステージ演目を見ている途中で雨が降り出し、残念ながらユースホテルに引き返す羽目となりました。夕食後のバンケットは圧巻でした！ 主催国の韓国はもちろん、ゲスト国のインドネシアとシンガポールの皆さんも熱演されました。

2日（日）は朝食の後、日本人ガイド付きのエクスカージョンで扶蘇山城へ出かけました。入り口からずっと遊歩道が続いており、私たちはガイドさんの後から歩いて行きました。百花亭のテラスから大河・白馬江を見下ろした後、百済の末裔たちが先祖の霊を慰めるために建てた阜蘭寺を見学し、すぐ側にある泉で「一杯飲むと三年長生きする」と言われる湧水を飲みました！ それから川岸に下り、遊覧船に乗り扶蘇山城と落花山を見上げるクルーズを体験しました。660年、百済が新羅・唐連合軍に撃破された時、宮廷の女官たちがその崖から身を投げてまで貞節を守ったと聞き、彼女たちの心情に想いをはせると可哀想でなりません。クルーズの後、市場内の食堂で昼食を済ませ、ユースホテルに戻り、午後3日頃大田駅を立ち釜山駅に4時過ぎに到着しました。私は旧知の朴さん夫妻と夕食を共にし、午後7時に「カメラリア」号に乗り込み、翌朝7時半に博多港に到着し、手続きを済ませ我が家に9時前に帰り着きました。

1日朝の討議の席で、エリア・コーディネーターのSさんから「現在エリア・コーディネーターの存在する地域は二つだけであり、国際本部はエリア・コーディネーターを廃止する意向である」と発表されましたが、私たちは従来通りエリア・コーディネーターを持ち、これまでと同じように2年に一回「東アジア会議」を続けることで合意しました。いくらIT時代になったとは言え、やはり人と人のふれあいに勝るものはありません。その意味で今回の決定は東アジア各国にとって大きな収穫であった、と思われま

す。今度はモンゴルに出かけ、H会長と仲間たちを囲んで楽しい集まりを持ちたいものです。蛇足ながら佐賀の自慢の一つ。百済25代の王様で、高句麗に奪われたソウルを取り戻し百済の再興に貢献した武寧王は、佐賀県唐津市の加唐島で生まれです。佐賀においでの際はどうぞ唐津へ！

2) 韓国訪問、今回の新体験

長崎 0. T. 会員

韓国訪問、通算20回目。辛いもの苦手、韓国語はサバイバル程度とハングルの拾い読みだけ、という私がよくも気安く訪問しているものだと我ながら感心しているのですが、きっといつ行っても何か新しい発見があり、好奇心がくすぐられていること、安心して町歩きができる安全性があること、交通費が安いこと等がそのもとになっているのだらうと思います。

今回は日本サーバス会長という私には重すぎる役割を背負っての参加でしたので、そのための準備と身体を持たせることをメインにして行



きましたが、そこは「転んでもタダでは起きない」生来のど根性で、サーバスステイもしっかり楽しんできました。

今回のステイ場所は大邱（テグ）。ステイしたご夫婦に、伽耶(カヤ)山の山あいにつ建つ海印寺(ヘインサ)につれて行っていただきました。溪流沿いの林の中のハイキング、たちまちお気に入り。道沿いに出されている地元のアジュマたちの野趣たっぷりの露店、そして頂上の世界遺産のお寺とそこで振る舞われた無料の昼食やおやつ……。たっぷり賞味させていただきました。

このお寺での「ご接待」は毎日行われており、誰でも振る舞っていただけるそうです。大学の学食のような広い食堂で、「無音」でいただきます。今回の新発見と体験はこれがNo.1です。後は例によって私の失敗談多数。でも、楽しかったです。同行のみなさまいろいろありがとうございました！

3) 第八回東アジア会議に出席して

福岡 T. Y. 会員

韓国の世界遺産の都、扶余で開かれた第八回東アジア会議に参加しました。国際会議に参加するのは初めての経験でした。プレゼンでは0会長は日本サーバスの現状を分かり易く時にユーモアを交えて話され、日本の‘オガタ’の存在を示したと思います。準備をされるのにどれだけ大変だったかと思いました。

韓国のメンバー以外にも色々な国の方々(インドネシア、台湾、シンガポール)と交流し、韓国サーバスの企画で世界文化遺産の宗廟、サムソン工場、水原の華城、要塞、鹿洞書院、城塞見学、川下りなどイベント盛りだくさんでした。

思い出に残ったのは、全員で訪れた場所ではないのですが(韓国メンバー2名と日本メンバー3名で)鹿洞書院で文禄・慶長の役の際、加藤清正の配下として朝鮮に渡った沙也可(さやか、朝鮮語発音では‘さやが’1571年?~1642)が朝鮮文化を慕い、また秀吉の出兵に大義なしとの思いから3,000人の兵士と共に朝鮮側に降伏して朝鮮軍に加わり、火縄銃の技術を伝えて日本軍とも戦ったとされる。その功績を称えられ王から金海金の姓を賜り、金忠善(キム・チュンソン)と名乗って帰化人となった。



テグ市郊外の友鹿里(ウロンリ)には沙也可の子孫が暮らしているそうです。朝鮮半島では英雄とされています。こういう話を聞いた事がなかったので驚きました。それに関する本が何冊が出版されているので読んでみようと思いました。

韓国サーバスのパワー、若いメンバーが多く、豊富な人材に驚かされました。Eさん初め韓国の執行部の皆さま、そして0さん、何から何までお世話してくださいました。心より感謝いたします。

4. 秋の例会報告

1) 佐賀での秋例会に参加して

大分 I. M. 会員

10月29日(土)

大分を10分遅れで出発。熱気球が架線に接触したためJRが大幅に遅れましたが、武雄温泉駅で佐賀の会員さんが辛抱強く待っていて下さり、その車でまず武雄神社へ、樹齢3,000年の大楠のパワーを頂き武雄図書館へ、館内には本屋、CDショップ、コーヒーショップがあり何時間でも過ごせそうな感じ！！夜は武雄ハイツで食事の後に続いている懇親会！皆さんの近況が聞けました。

10月30日(日)

バルーンフェスタを見るため、ハイツロビーに6:30に集合。お天気に恵まれ、気球は空高く上がっていました。ご当地キャラ等々、子ども達も楽しめる気球が目の前で大きく膨らむのを見て圧倒されました。最後に海岸が一面に赤く染まるシチメソウを見学。平年は10月中旬から色付き始めるのですが、今年は少々遅くて全体が赤く色付くのはもうちょっと先の事。少し残念でしたが、辺り一面色付いた様子を想像しつつ佐賀を後にしました。お世話して下さいました佐賀の皆様有り難うございました！！



2) サーバス例会 in 佐賀

大分 Y. K. 会員

10月29日、0さんと私は佐賀へ出発しました。最初は交代で運転することになっていましたが、私が0さんの車を運転出来ず、行きも帰りも乗せてもらいました。(感謝) ホテルへは、一番に到着しました。たぶん2時間半ぐらいしかかからなかったと思います。

午後は皆さんと一緒に、武雄神社、武雄温泉、武雄図書館を佐賀サーバスの方に案内していただきました。武雄図書館の中ではスターバックスが有り、新しい形での図書館を見学しました。夜のミーティングでは、佐賀サーバスの方々のユーモアたっぷりのお話に時々笑いながら、楽しいひと時を過ごしました。食事も美味しかったです。



翌日は早朝にホテルを出発、バルーン会場へ。駐車場から会場への途中、綺麗な鳥を見ました。N先生から県の鳥カササギだとお聞きし、昔、佐賀鍋島藩の殿様が韓国より連れ帰ったのだそうです。私も、韓国では多くのカササギを見ました。カササギはその地域に住みつくのが習性なため、日本では大部分が佐賀平野にいるという事を教えて頂きました。佐賀になぜカササギが多いのかお話を聞いて納得しました。

話は違うのですが、私は葉隠れ漬が大好きです。無学の私は葉隠れという名前は佐賀のどこか地域の名前だと思っていましたが本（武士道を論じた書）だと聞き、自分の無学をより実感しました。

N先生、佐賀サーバスの皆様、お世話になりました。有難うございます。皆様、来年 山口(秋例会予定地)でお会いしましょう。

5. サーバス九州会員情報

- 九州支部会員数：51 家族（福岡 12名、佐賀 5名、長崎 10名、熊本 4名
大分 13名 宮崎 6名、鹿児島 1名）

6. サーバス九州からのお知らせとお願い

- レポートについて
サーバス旅行をしたり、トラベラーを受け入れた場合はその時の様子をぜひレポートにしてお送りくださるようお願いいたします。次回会報に掲載させていただきます。
- 2017 年度の会費納入のお知らせ
年会費 3,000 円の納入をお願いします。締め切り：2017 年 1 月 31 日。
郵便口座をお持ちでしたら振り込み手数料無しで送金できます。口座番号は会報の末尾に常掲しています。ご利用ください。
2016 年度をまだ納めてない方は会計から納入お願いの手紙が届いたと思います。お支払いしていただくようお願いいたします。
- 日本サーバス国内会議案内
日時 2017 年 3 月 18 日(土)～19 日(日)
会場 仙台市
参加希望の方は支部長までお知らせください。
- 1 年間の訪問トラベラー受け入れ報告についてお願い
年末が近づき、1 年間の支部活動状況を日本サーバスに報告しなければならない時期になりました。後日メールにてあらためてお願いしますが、トラベラーを受け入れて下さった皆さん全員に下記の項目について報告をお願いしたいと思います

ので、心つもりをお願いします。

(1) : お名前

(2) : トラベラー訪問の有無(日本人トラベラーも含む) 有 無

(3) : 受け入れをされた方はお手数ですが以下の報告をお願いします。

1: ID番号 2: お名前 3: トラベラー氏名 4: 国籍 5: Host/Day host

6: 同行者人数とトラベラーの関係 7: ホスト期間 8: 感想コメント